

調査の観点	発行者名 開隆堂	光村図書	日本文教出版
<p>1 内容 (1)発達段階に即している (2)興味・関心を引き出す配慮 (3)本市の学力の実態へ配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> 素材が豊富である。 それぞれの生徒作品について作者の言葉が記されており、生徒の発想やアイデアが見える。また、生徒の言語活動の参考になる。 発想が乏しい生徒たちに発想力をつける手だてがある。 紙面構成が工夫されており、興味・関心を引き出す配慮がなされている。 授業の流れに配慮されており、生徒の制作意欲が高められる工夫がみられる。 社会との関わり等に配慮しており、鑑賞教育にもそのまま使用できる工夫がされている。 デザインの分野では環境や資源に配慮した事例も取り上げられている。 伝統工芸の制作段階も紹介されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の教科書と比較して、やや文章の量が多くなっている。 それぞれの生徒作品について作者の言葉が記されており、生徒の発想やアイデアが見える。生徒の言語活動の参考になる。 全体の構成は工夫されており、生徒の制作意欲を高める工夫が見られる。 発想や構想の項目では、作家の考え方を紹介しており特徴的である。 1年次の「形と材料」では、それぞれの材料に応じた記載がしてあり、大変分かりやすい。 谷川俊太郎の詩を利用し、3冊の流れをつくっている。 生徒作品数と作家作品数のバランスがとれている。 道徳との関連が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料や作例が豊富である。 生徒作品に「作者の言葉」があり、作品の意図、生徒の発想、アイデアは伝わりやすい工夫がある。生徒の言語活動の参考になる。 全体を通して、生徒の関心や意欲を引き出しやすい工夫がある。 美術の授業を通して、何を学ぶのかどのような力を身につけさせるのかなどに重点が置かれている。 自然や生命、環境に関わる題材、図版が各学年に渡って豊富であり、新学習指導要領に即した紙面構成である。 発達段階に即した内容である。
<p>2 構成及び分量 (1)内容の組織配列、発展的記述 (2)発達段階に配慮した分量 (3)基本事項の押さえと補充教材 (4)発展教材への配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> 題材の配列は、従来の「絵画・彫刻」「デザイン・工芸」「鑑賞・資料」の領域を踏襲している。 紙面構成が見やすく、社会や伝統文化とのかかわり、身近な生活の中の美術等、発展性のある記述が多い。 美術史年表の図版は多いが、相互の影響についての記述がない。 用具の使い方やいろいろな技法についても、具体的な技法が囲みで示されており、基本的な事項を押さえやすい。 「発展的」題材については、囲み記事(コラム)として示されている。 1年生の導入に小学校からのつながりが配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材の配列は従来の「絵画・彫刻」「デザイン・工芸」「鑑賞・資料」の領域別を踏襲している。 全体の分量が適切であり「色と光」の項目では1年次、2年次とそれぞれの発達段階に応じて内容がよく工夫されている。 美術史年表の図版は多いが、相互の影響についてはわかりにくい。 資料のページを教科書の巻末に入れてあり、具体的な技法や道具の扱い方などが図版等で詳しく説明されている。 日常生活での美術との関わりが記載されており、発展材料への配慮がされている。基本事項への配慮もなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材の配列は育てたいテーマ別の紙面構成となっている。旧学習指導要領の領域別配列とは違い、新しくなった。 分量的には適量である。 美術史年表に工夫が見られシンプルにまとめられている。相互の影響についても記述がある。 彫刻刀や糸鋸の使い方など技法や道具の用法等の資料的な内容がほとんどない。補助教材と合わせて使用するようになっている。 発展的題材については、囲み記事(コラム)として示されている。
<p>3 表記及び表現 (1)生徒にとって読みやすい表現 (2)印刷、写真等の見やすさ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「関心・意欲」「発想・構想」「創造的な技能」「鑑賞」の4観点に即したねらいに整理されている。 半光沢・ボールペン書き込み可。鉛筆可 図版のバランスもよく、その内容も考えられている。文章表現も簡潔で、図版とのバランスもよい。印刷等大変見やすくなっている。 各図版についているキャプションの量は、他社2社に比較すると少なめである。 掲載作品は多いが、図版が小さめである。 発色がきれいで、色の配置にもメリハリがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各題材のページの冒頭に4観点が示されており、生徒の学習目標が明確に示されている。 図版が大きく見やすい。強い印象も受ける。大きさなども効果的で、興味・関心を引き出す工夫がされている。 各図版についているキャプションの量は多い。ただし、そのために文字の大きさは小さい。 鑑賞授業に使える内容が多く、見開きの大きな図版もあり大変良い。 実際の授業で取り上げられそうな作例の紹介が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元は3観点が明記されている。「発想・構想」「創造的な技能」「鑑賞」の3観点に即したねらいに整理され、生徒の学習目標が明確に示されている。関心意欲はないが、特に不都合は感じない。 光沢紙、ボールペンの書き込み可。 オーソドックスな構成であるが、図版の配置のバランスはとれている。 各図版についているキャプションの量は多い。ただし文字の大きさは小さめである。 文章表現はわかりやすいが、説明文が多い。 余白が多く、すっきりしていて見やすい。 印刷等も見やすい。
<p>4 使用上の便宜 (1)全体が構成見渡せるよう配慮 (2)課題発見、解決に向けた学習が効果的に進められる配慮 (3)印刷、装丁への配慮 (4)地域性への配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2・3年生の上下本を一冊にまとめてある。 各題材が3年間を通して系統的に配列されており、学習が行いやすくなっている。 生徒が主体的に学習活動が行いやすい配慮がされており、生活の中で美術を生かしていくことにつながる題材設定がされている。 生徒作品が多く、制作過程についての説明がある。 学習の振り返りの観点が示されている。また、見出しが印象的である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「2・3」は上下2冊である点は従来と同じ。 3年間を見通した一貫性のある構成となっており、授業の中でも使いやすい構成である。 普段の暮らしの中と美術の関わりについての記載が多く、生徒が主体的に学習しやすい内容となっている。 バーコードのデザインに工夫がある。 タイトルに工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「2・3」は上下2冊である点は従来と同じ。 全体の構成が題材別ではなく、テーマ別構成となっており、教師側に参考になる内容である。 課題発見や解決に向けた学習に配慮された構成である。 生徒の発達段階にもよく配慮されている。 大きな写真が本のとじ目にあたっている。
<p>5 総合所見(重点調査項目) 生徒作品を取り入れているか 発想の転換につながる多種多様な表現が工夫されているか</p>	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力を重視し、社会や世界に関わらせようとする題材がある。 「鑑賞」と「表現」は独立して構成されている。 同世代の作品を取り入れている。 作品だけでなく、生徒が作業をしている図版が多く、様子がわかりやすい。 作品数も多く、鑑賞授業に使える部分が充実している。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力を重視し、社会や世界に関わらせようとする題材がある。 「鑑賞」と「表現」を結びつける工夫が見られる。 同世代の作品を取り入れている。 言語表現を多く取り入れ、心情を呼び起こしながら発想を高めようとしている。 制作過程の図版等も豊富で使いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力を重視し、社会や世界に関わらせようとする題材がある。 「鑑賞」と「表現」を結びつける工夫が見られる。 アイデアスケッチ等の図版が多く生徒の発想の手助けになる。 同世代の作品を取り入れている。 内容を精選し、見やすく、表現をしばっている。 右ページに生徒作品、左ページにプロ作家の紹介もある。